

## 1. スクーリングの出席率が昨年度よりUP!?

6月の唐津でのスクーリングにお邪魔しました。廊下を通り過ぎるだけでしたが、生徒の皆さんが授業中の説明をしっかりと聞いている様子を見ることができました。佐賀での様子は月曜日に同様に見ましたが、同じように頑張っている様子が見られました。毎週水曜日の職員朝礼の際にスクーリングの報告会があります。出席率が昨年度よりUPしていると聞いています。7月に入ってすぐのスクーリングは大雨だったのにもかかわらず、出席率が落ちなかったと報告がありました。また、授業を聴く態度に真剣さがまして、中には、今まで親にやや甘えが感じられた生徒が自ら進んで授業に出るなど自立が感じられる場面がみられるようになってきた報告もあります。今年度は例年とは違って定通総体などの行事が中止になりましたが、文化部（書道、美術、音楽、写真）の活動が充実しているようです。まだまだコロナ感染症や大雨など不安な状況もありますが1歩ずつ確実に自分を自ら成長させている生徒が増えつつあることを大変うれしく思っています。

## 2. コロナ感染症による新生活様式

東京都の新規感染状況や隣県の福岡、鹿児島の様子を見ていると新型コロナウイルスの感染には今後も注意を払っていかねばなりません。

- ① 毎朝の健康チェック
- ② 体温測定、
- ③ 人との間隔は最低1mあける。
- ④ 会話は真正面を避ける。
- ⑤ 症状がなくてもマスクの着用（熱中症に注意しながら）。
- ⑥ こまめな手洗い。

これらは、新生活様式と呼ばれ、こういった小さなことの積み重ねが感染から身を守る唯一の方法となります。自分のためでもあり、家族のため、地域のためでもあります。一人ひとりの自覚ある行動が求められています。1人ひとり自覚して、公共の場での行動につなげてほしい。世の中には、自分勝手な人もいます。もし、北高生であるとわかるものを身に着けていた時には、北高の看板にもなるので、北高生（高校生）の心意気を見せてあげてください。

## 3. 進路目標はあるの？

大リーグで活躍している大谷翔平選手は、高校時代に60歳までの自己の未来年表を作成し、それに近づくため今何が必要かを考えて、常に目標の実現に向けて計画を実行していたそうです。みんなも・・・と言いたいところですが、世の中そんなにすごい人ばかりではありませんが、ただどんなことでもきっかけが大切です。

まず、**自分自身のことについてもっともっと考えましょう**。自分の悪い面ではなく**良い面を見つめましょう**。周りの人に聞いてもいい。自分で気が付かなかった自分に出会えるかもしれません。そうしておいてどんな生き方をしたいのかをじっくりと考えてほしい。大学も含めて職業について調べるきっかけになるはずです。自分の進路だから自分で調べて進路目標をつかんでください。

偏差値35から医者になった人が言っている受験の目標に向けてのアドバイスを紹介します。『高い目標を設定する。』周りに笑われたっていい。ただひたすらにそこに向かって努力を重ねていけば、少なくとも8割は達成できるはず。『どうせダメだろう』と、最初から手に届き

そんなレベルを目指していたら何も手にできないでしょう。偏差値 35 の僕だって医者になれたんですから」

#### 4. 自分の能力を社会のために磨け！

勉強の必要性を感じ本校へ入学してきた初心を大事にしてください。教員は、手助けはもちろんでできますが、あなた方の能力をだれが伸ばすのかということあなた方自身が伸ばしていくしかないのです。ただ、高校入試と大学入試の受験 1 つとってみても努力する量が圧倒的に違います。よくフルマラソンを例えに使われますが、高校入試はトラックを走る部分、それ以外が大学入試であると。だからこそ、目標を決めその目標に向けて毎日努力を続けていくしかないのです。「そんなことは分かっているけれど・・・」といて時間がない言い訳をしがちですが、時間は自分で作るものなのです。スマホを見ている時間を集めたら、移動の時間や休み時間を利用したらなど工夫次第で時間は作れます。要するにやり抜く覚悟とやり続ける体力が身についているかなんだと思います。時間はみんな平等です。

また、「がんばったんだけど・・・」という人もいます。がんばったかどうかを決めるのは自分ではありません。他人が決めることです。「もうこれ以上できない」が本当のスタートです。そこから 1 秒でも 2 秒でも伸ばしましょう。

ただ、努力をし続けていく皆さんへ 1 つ追加のお願いです。

昨年話題になった東京大学の入学式で上野千鶴子教授の祝辞を紹介します。

「あなたたちのがんばりを、どうぞ自分が勝ち抜くためだけに使わないでください。恵まれた環境と恵まれた能力とを、恵まれない人々をおとしめるためではなく、そういう人々を助けるために使ってください。そして、強がらず、自分の弱さを認め、支えあって生きてください。」

## 6. 目標を実現したある生徒の物語

### 第2章

### 高校時代の授業の受け方

期末考査は 1 週間後。とりあえず部活の道具は封印。身体がなまらないようにストレッチ & トレーニングは毎日の日課。成績はクラスの半分よりやや上。推薦も場合によっては考えているのでこの期末でもう少しいい成績を残したい。クラストップの友人は親切で今日も遅くまで付き合ってくれた。授業はよく分からないがあいつの説明は本当によくわかる。あいつは天才だ。

翌日もそのまた翌日も、あいつと遅くまで学校に残って勉強した。2 人とも黙々と・・・ではなく、いつものように一方的に分からないことを分かるように説明してくれた。日曜日も学校であいつと勉強した。いつも聞いてばかりで悪いとは思いつつ。気になったので聞いてみた。「勉強の邪魔になっていないか？」あいつは「お前に教えると今まであやふやだったものがはっきりと分かるようになるんだ。」「お前に教えていると本当に自分のためのいい勉強になる。」

なるほど、そういえば中学時代に友人に教えたことによって理解が深まった経験は確かにある。

あいつは時々「お前、ここは先生がこの前説明したろ。ここは大事だといって」ということがある。全く身に覚えがない。忘れていたのだと思っていたが何回もこんなことがあった。

「お前授業ちゃんと聞いている？」「黒板の字を写しているだけ何じゃないの？」

「えっ！」「あっ！」「確かに！」（続く）